

「戦争法廃止」に「署名する」

福井総がかりアクション

「戦争する国づくり 反対！福井総がかりアクション」は26日、福井市で早朝駅頭宣伝に取り組むとともに、宣伝カーをいっせいに走

らせ、「戦争法廃止の2000万署名にご協力」と訴えて回りました。事務局の松原信也さん、福井市や、県平和センターの宮下



訴える（左2人目から）山田金元画氏ら＝26日、福井市

永慶治幹事長などが行動しました。

松原氏が「戦争法廃止の運動を強めて県民世論を高め、参院選勝利の流れをつくらう」と号令をかけるなど、県高等学校教職員組合などや共産、社民両党の計5団体が宣伝カーを運行し、街頭演説とあわせて返信用封筒付き

**広げよう
2000万署名**

1/30 55

署名用紙を各戸に配布しました。

山田候補は街頭から「戦争法を廃止に追い込んでいく取り組みで来ました。みなさんの平和が一番、戦争だけ」と話しました。

孫考え戦争法廃止に

長野・大町講演と意見交換会

「おおまち9条の会」は「戦争をさせない1000人委員会・大北」は23日、長野県大町市で、「講演&意見交換会」を開き、厳寒の中、80人が参加しま

した。「孫のことを考えても、安保法制（戦争法）をなんとかして廃止したい。そのためには今度の参院選が重要と思う」など活発に意見を交わし、「新安

保法制』の廃止を目指すアピール」を採択しました。

「新安保法制と憲法9条」と題して講演した成澤孝人信州大学教授は、新安保法制がこれまでの憲法解釈のどの部分をくつがえしたか詳しく話しました。

成澤氏は、これまでの政府解釈からも、「集団的自衛権を認める解釈の余地は全くない。ましてや、自衛隊活動の地理的拡大、非戦闘地域の限定をはずす、弾薬の供給などを認めた重要影響事態などの考え方は、全くの違憲である」と指摘。違憲無効の同法によって、「国民は憲法を失い幸福追求の権利を失う」と端的に述べ、「憲法政治によって新安保法制を廃止すること」と、たたかひの重要性を強調しました。

「9条の会」は昨年5月の発足以来、毎月「9の日行動」で地域に宣伝・署名に入ってきました。現在、「立憲主義、民主主義を取り戻そう」と活動を進め2000万署名は1500人を超えました。